



肺がん 2023年10月版

# Oncologist Fact Report

肺がん患者の治療・情報収集レポート

患者編

株式会社メディカルトリビューン

Lung cancer '23



## 北里大学病院 呼吸器内科 講師 中原善朗 先生

近年、肺がん領域では新たな治療薬次々と実用化されており、治療選択肢が増える一方で治療が複雑化しています。患者さんにとっては、治療薬の効果、医療機関の特徴などに関する情報が多岐にわたり、正確に理解することが難しい状況です。また、がん治療の影響から、就労の継続や経済面での問題に不安を抱える患者さんも少なくありません。

本レポートは、肺がんの薬物療法を経験したことがある患者さん300人を対象に、主治医とのコミュニケーションの状況や治療薬に関する情報収集、治療と就労を両立する上で感じている諸問題、治療・薬剤に関する情報収集、デジタルヘルスの利用状況について調査したデータを解析したものです。

私自身も日々、肺がん患者さんと接していますが、本レポートは客観的なデータとして患者さんの状況や考えを知ることができ、今後の診療に大いに生かせるものだと思います。新たな治療薬の実用化によって患者さんの生存期間が延長することができるようになりましたが、患者さんは必ずしも全員が延命効果の高い治療を希望しているわけではない。またステージによって薬物療法に対する不安は異なり、ステージⅠ、Ⅱ期では副作用への不安が最も大きい一方、Ⅲ期では治療期間、Ⅳ期では治療費用への不安が最も大きいことが分かりました。生存期間の延長に伴い、治療と就労の両立は治療継続の上でもますます重要になってきていますが、精神的不安や就労状況の調整の難しさなど、罹患後の就労継続に困難を感じているにもかかわらず、相談できる相手がいない患者さんも一定数いらっしゃることも分かりました。

肺がんの薬物療法が着実に進展している中で、単に生存期間の延長だけでなく、目の前の患者さんの声に耳を傾け、患者さんが望まれる良質な人生を過ごす時間が延長できるような支援体制を構築するために、本レポートを通じて医療関連企業の皆さまにもご理解、ご協力をいただければ幸いです。

# 目次

1	調査概要	
	● 回答者属性	<a href="#">5</a>
2	サマリー	<a href="#">9</a>
3	調査結果詳細	
	● 第1部：肺がん患者の実態	
	- 3-1：通院／転院の状況	<a href="#">13</a>
	- 3-2：主治医とのコミュニケーション	<a href="#">20</a>
	- 3-3：薬物療法の状況	<a href="#">25</a>
	- 3-4：就労の状況	<a href="#">38</a>
	● 第2部：肺がん患者の情報収集	
	- 3-5：治療・薬剤に関する情報収集	<a href="#">42</a>
	- 3-6：デジタルヘルスの利用状況	<a href="#">49</a>

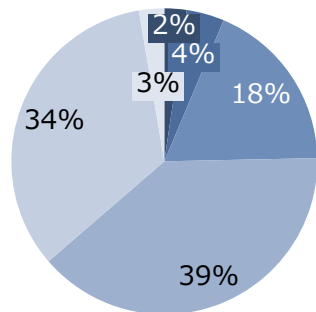
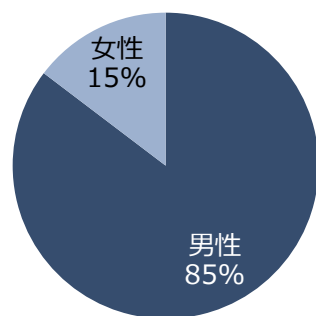
## 調査概要

調査対象者条件	1. 肺がん薬物療法の経験がある患者 2. 20歳代以上の男女		
標本抽出	一般消費者パネルからのランダム抽出	調査手法	WEBアンケート調査
サンプル数	300ss	調査時期	2023年8月10日～17日 前回調査：2022年9月9日～9月29日

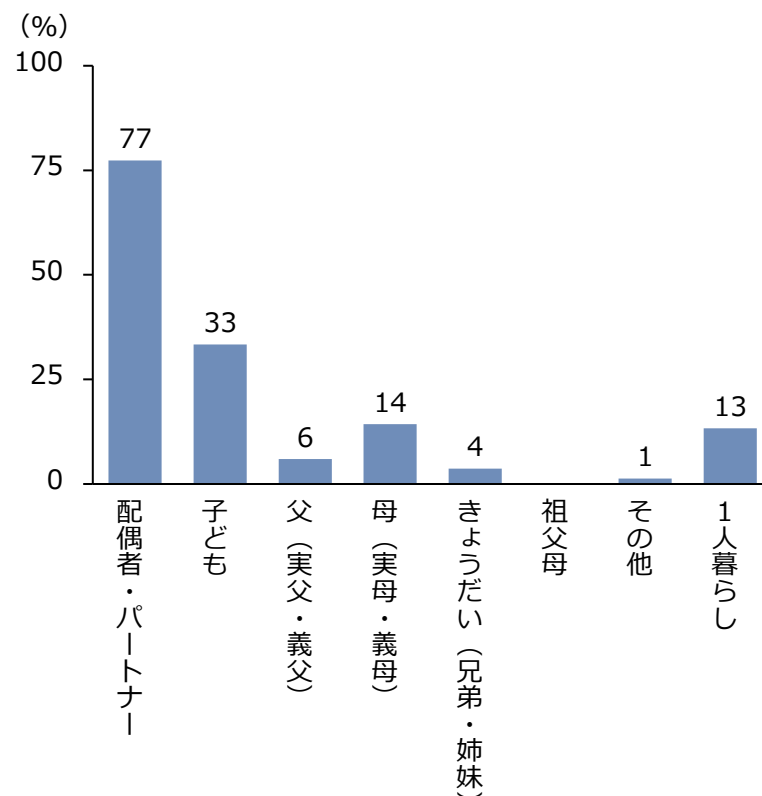
### 全体

- ✓ 性は男性が85%、年齢は50~70歳代が約90%を占めた
- ✓ 既往歴は、高血圧症が25%と最も多く、次いで糖尿病の17%だった

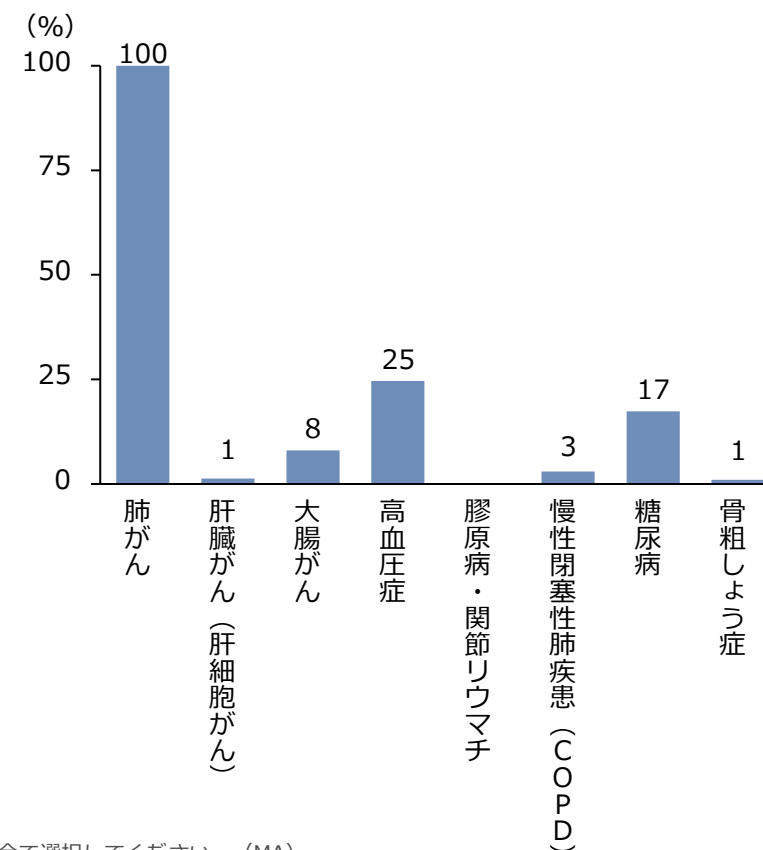
#### 性・年齢層



#### 同居家族



#### 罹患経験がある病気



※SQ1.あなたの性別を教えてください。/SQ2.あなたのご年齢(世代)を教えてください。

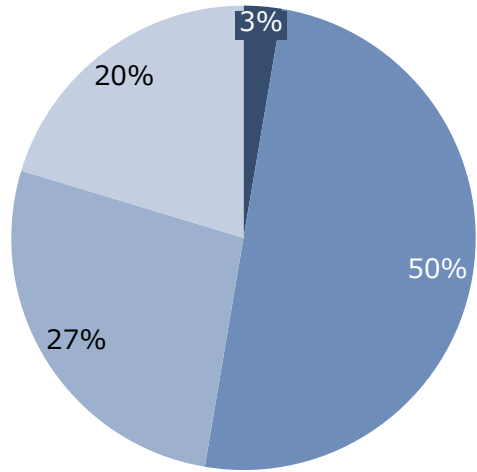
※Q22.肺がんを治療している(していた)時の同居家族を全て選択してください。(MA)/SQ3.あなたが罹患している(罹患していた)病気について、当てはまるものを全て選択してください。(MA)

### 全体

- ✓ 最初の診断からの経過年数は、1～5年未満が50%で最も多かった
- ✓ 診断時のステージは、ステージ1が25%で最も多かったが、2～4もほぼ同率だった
- ✓ 治療経験は、抗がん薬による治療が81%に上り、免疫チェックポイント阻害薬が20%を超えた

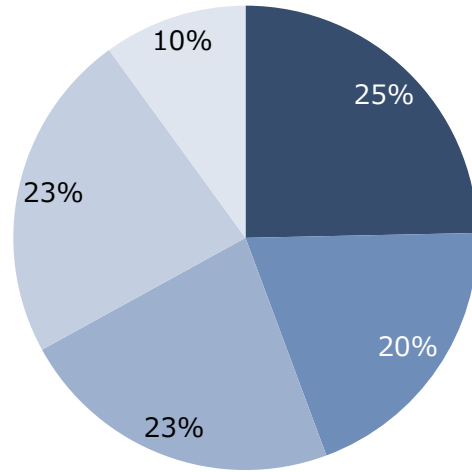
(n=300)

#### 最初の診断からの経過年数



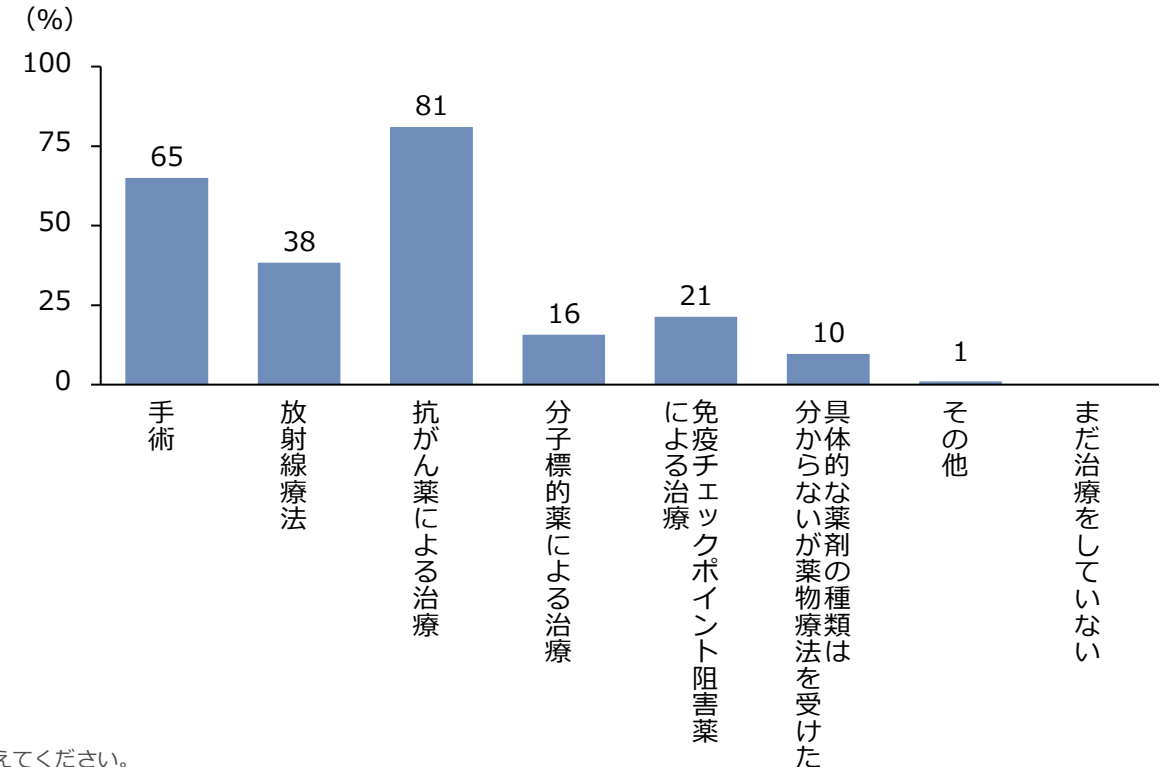
1年未満  
 1～5年未満  
 5～10年未満  
 10年以上  
 覚えていない

#### 診断時のステージ



ステージ1  
 ステージ2  
 ステージ3  
 ステージ4  
 分からない/状態は伝えられなかった

#### これまでに受けた治療

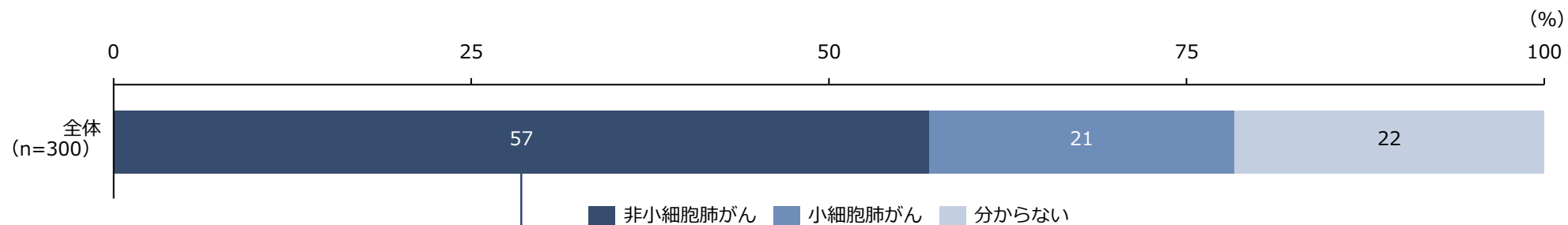


SQ4.肺がんと最初に診断されてからの経過期間を教えてください。/Q3.肺がんと診断された際のステージまたは状態について教えてください。  
 SQ5.これまで投与された経験がある薬剤について、当てはまるものを全て教えてください。(MA)

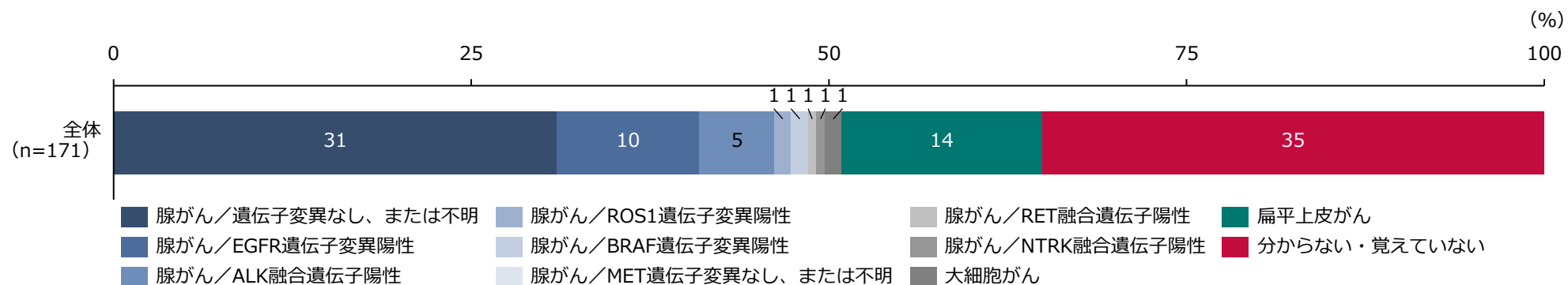
### 全体

- ✓ 肺がんの種類は「非小細胞肺がん」が57%で最も多かったが、分からないは2割程度いた
- ✓ 非小細胞肺がんでは、「腺がんの遺伝子変異なし、または不明」が31%で最も多く、次いで「扁平上皮がん」が14%であった

罹患した肺がんの種類



罹患した組織型



Q1.あなたが直近で罹患している（罹患していた）肺がんの種類（＝組織型）を教えてください。／Q1-1.非小細胞肺がんのうち、あなたが直近で罹患した組織型を選択してください。





# Oncologist Fact Report

2023年10月版

医療者とともに

**MT** MEDICAL  
TRIBUNE

CONFIDENTIAL

本資料は、貴社社内関係者のみによって使用されるものとし、本資料のいかなる部分についても、株式会社メディカルトリビューンの事前の書面による承諾を得ずに、回覧・引用・複製、あるいは貴社外部に配布してはならないものとします。